

遺体安置専用の安置室を2室設置。自宅に遺体を安置する場所がなかったり、葬儀を行わず直接火葬場へ向かう場合でも利用できる。病院や介護施設などから搬送された遺体を安置室で

預かり、遺族と打ち合わせを行った後に適切な規模のホールで葬儀を執り行い、ホールの利用効率を高める。葬儀会館が葬儀場と別棟に遺体安置専用の施設を設けることは全国的にも珍

しいという。同社は、可見市に最大400人収容の可見駅前ホールと川辺町に同200人収容の川辺ホール、同1000人収容の七宗ホールを運営している。

業
オ工
ニ子
ユ電

業務改善コンサル強化

経営革新等支援機関認定めざす

【大垣】製造

業務請負などを手がけるユニオン電子工業（本社岐阜県神戸町川西、児玉浩一社長、電話0584・27・7330）は、業務改善コンサルディング事業を強化する。製造現場の生産性向上や品質管理、コスト削減などの業務改善を中心に顧問先企業を拡大。2015年度中に経



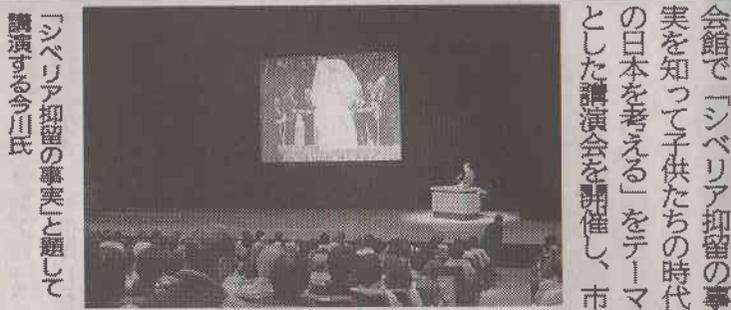
コンサルティング現場のようす

サイクルで成果を引き出し

ている。実際にコンサルを行った関市内の自動車部品メーカーでは、設備停止時間のロス対策によって設備稼働率を半年間で81%から91%にまで改善した。こうした業務改善の依頼は、ここ1年間で食品関係や木製品、機械工具、樹脂部品メーカーなど24件に及んでいる。

同社のスタッフは、中小企業・小規模事業者を支援する中小企業庁委託事業「ミラサポ」の専門家登録をしており、これへの依頼も増えているが、これら中小事業者は補助金申請の手続きなど慣れないことが多い。

そのため、これまでのコンサル実績をもとに経営革新等支援機関の認定を受け、経営計画の立案から実証までをサポートするワンストップサービスを提供できるようにする方針。



「シベリア抑留の事実」と題して講演する多川氏

民ら約600人が集まった。

終戦から70年を迎えたのを機に日本の未来を考えようと企画した。丸順最高顧問の今川順夫氏が「シベリア抑留の事実」と題して、厳寒の地で過ごした過酷な抑留生活から奇跡の生還までの体験をスライドを交えて紹介。悲らかな戦争の一面を語り伝えた。

続いて、中部大学教授の武田邦彦氏が「子供たちの時代の日本を考える」と題して講演した。武田氏は過去の戦争の歴史を振り返りながら、「誰もが平和な方がいいと思うについても戦争は仕掛けられてくる。子どもたちのために、今の世代がどうすべきかを考えてほしい」と訴えた。

方る。一方、あゆちの家はツーカーバイフォー工法の愛知県向け住宅。耐震性に加え、漆喰（しっくい）、無垢（むく）材などを使用して湿度、気温の高い同県でも快適に過ごせるよう仕立てた。シヨールームでは、耐震性などを来場者が体験できる。シアターコーナーを設

紹介

で住宅の内
外観を紹
介。来場者
がイメージ

ビジネスモデルなど学ぶ

一宮会議所が創業スクール

【一宮】一宮商工会議所はこのほど、一宮市栄の同会議所で「一宮創業スクールの1回目の講習会を開いた。創業を検討している

当日は、なかよし経営相談事務所（一宮市浅井町）の東野礼代表が講師となり、ビジネスプランの作成準備やビジネスモデルの構築などを解説。参加者が4班に分かれて、グループワークなども行った。

同スクールの実施は、2014年度に続き2

今後は、マーケティングの基礎知識や営業・販売戦略、資金調達の手法などを